

大阪府次世代自動車普及インフラ推進に係るビジョン
府内143カ所に計1,638台の充電設備を、EV27に接続後20
年、主要道路と主要幹線道路の両方に計10基、それら93カ所
に追加する。計1,731基の充電設備を配置する(2013.4.25)

EV関連の情報発信と産業振興で 「EV・PHVリーディング都市・大阪」をめざす



ワンプロトタイプでEV充電ステーション(日本とど
ころか)を構築して集積中のEV→EV充電ステーション

現状

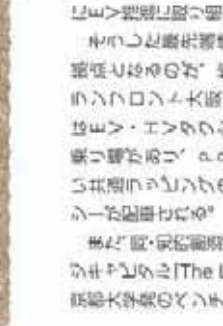
充電インフラ整備は調子
2011年度末時点でEV1,068台、PHV193台だったが、最新データでは2,300台以上1年余り伸び2倍に増進。充電インフラは主にカーシェアリングを中心に車庫店や商業施設等での整備が進み、2012年度末時点で急速充電器60基、200V普通充電器322基。

目標

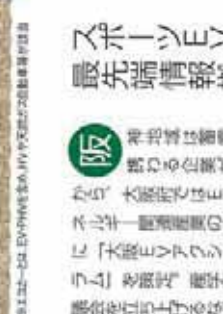
「右に右をエコカー」に目標
2020年度にEV3万1,000台・PHV2万2,000台の計5万3,000台を目標に、2015年度までにEV7,000台・PHV5,000台の計1万2,000台が中間目標。充電インフラは2015年度末までに急速充電器33カ所、2020年度末まで77カ所(1年、特別に200V普通1,300基以上)が目標。



1 最新のEVスポーツカー「NISMO」EV27の展示。府内では自動車メーカーのEV27が「NISMO」EV27の展示。府内では自動車メーカーのEV27が「NISMO」EV27の展示。



2 EV充電ステーションの設置。府内では自動車メーカーのEV27が「NISMO」EV27の展示。



3 EV充電ステーションの設置。府内では自動車メーカーのEV27が「NISMO」EV27の展示。

大阪府は蓄電池産業に携わる企業が多いことから、大阪府ではEV等の普及を促す。産業振興の観点から、EV普及を促進する。産業振興の観点から、EV普及を促進する。産業振興の観点から、EV普及を促進する。

Vision

めざすEV・PHVリーディング都市
大阪府が「EV・PHVリーディング都市」を創出する。大阪府が「EV・PHVリーディング都市」を創出する。大阪府が「EV・PHVリーディング都市」を創出する。

Usersay

利用者の視点
普通充電器を有効に
「長時間充電中の充電不足利用である。普通充電器を有効に利用するためには、充電器の設置場所や充電速度を改善する必要がある。」

京都府次世代自動車普及インフラ推進に係るビジョン
府内143カ所に計1,638台の充電設備を、EV27に接続後20
年、主要道路と主要幹線道路の両方に計10基、それら93カ所
に追加する。計1,731基の充電設備を配置する(2013.4.25)

京都議定書の街が真摯にめざす EV・PHV普及率を全国最高水準に!



ワンプロトタイプでEV充電ステーション(日本とど
ころか)を構築して集積中のEV→EV充電ステーション

現状

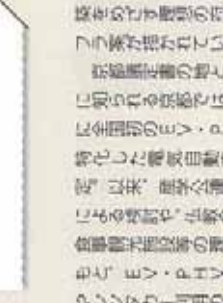
理想は全国最高水準
2013年3月時点での府内でのEV・PHV導入台数は1,050台。一般公開されている急速充電器は42基だが、普通充電器の設置台数については調査中。しかし、全国最高水準をめざす意気込みが強い。

目標

2013年長までEV5,000台
アクションプランでは2013年度までにEV・PHV5,000台普及が目標。充電インフラについては即時起用可能な急速充電器50基、100V・200Vコンセント7,000基の普通充電設備を整備する。目標は強い。



1 EV充電ステーションの設置。府内では自動車メーカーのEV27が「NISMO」EV27の展示。



2 EV充電ステーションの設置。府内では自動車メーカーのEV27が「NISMO」EV27の展示。



3 EV充電ステーションの設置。府内では自動車メーカーのEV27が「NISMO」EV27の展示。

京都府は蓄電池産業に携わる企業が多いことから、京都府ではEV等の普及を促す。産業振興の観点から、EV普及を促進する。産業振興の観点から、EV普及を促進する。

京都府は蓄電池産業に携わる企業が多いことから、京都府ではEV等の普及を促す。産業振興の観点から、EV普及を促進する。産業振興の観点から、EV普及を促進する。

京都府は蓄電池産業に携わる企業が多いことから、京都府ではEV等の普及を促す。産業振興の観点から、EV普及を促進する。産業振興の観点から、EV普及を促進する。

今後の展望

めざすは「電気はき京都」
今年度策定のビジョンで、府内を南北に貫く高速道路や村道道路沿いを中心に、今後充電インフラが整備される見込み。朝顔を整備して「電気はき京都」が実現したい。

利用者の視点

京都議定書の街に最適
京都議定書の街として世界的に有名な京都は、観光スポットが市内に多く「EVでも観光しやすいのが特長。」「EVのタクシーやレンタカーは特長なので、竹林の静かな京都の街がEVに最適。」

利用者の視点

京都議定書の街に最適
京都議定書の街として世界的に有名な京都は、観光スポットが市内に多く「EVでも観光しやすいのが特長。」「EVのタクシーやレンタカーは特長なので、竹林の静かな京都の街がEVに最適。」

鳥取県次世代自動車充電インフラ整備ビジョン
 今後のEVの普及と移動の自由を確保するため、地域の活性化を図り、交通量の多い道路、主要地方道の沿道を中心に、都市付帯部周辺、主要観光地などに総数566カ所の充電インフラを整備する。

中国・四国と近畿圏を結び結節点として 広域的かつ円滑なEV移動の実現を目指す

目標
 2015年度までに1000台

現状
 2年前倒しで目標達成

2011年3月に設定した中期目標では、EV-PHVは2015年度までに1000台を目指す。充電インフラについては、半径30km圏で県内全域をカバーできるように、県内の20カ所に急速充電器設置候補地を定め、整備を進める。

2013年3月時点でのEV導入台数は、1037台で、2年前倒しで目標を達成している。

充電インフラは、目標の20カ所のうち17カ所に設置済み、急速充電器の県内設置数は、52基となっている。



急速充電スポットと観光スポットの距離を短くするためのEV移動情報サイト「EVナビ」は、県庁ホームページのリンク先からアクセスできる。県庁ホームページ: <http://www.pref.tottori.gov.jp/evnavi/>。お問い合わせ先: evnavi@pref.tottori.gov.jp (中国・四国エリア) / 充電スポットマップに掲載

広域的な充電スポット情報の提供をスタートさせ OVECでは次世代自動車の新技術を研究開発

中 田・四国・中国・大分・兵庫をつなぐ高速道路の結節点にある岡山県では、広域的なEV移動をスムーズにする目的で「中国・四国エリアEV普及促進推進会議」を立ち上げ、2012年4月からドライブ情報サイトで急速充電スポットの情報を観光情報とともに提供。次の急速充電器までの距離や所要時間を知らせることで、EVの走行可能距離を考慮したドライブ計画を立てる一助となっている。

県内に三菱自動車水島製作所を有するという土壌前もあり、岡山県ではEV・PHV普及に向けた様々な取り組みが積極的に行われている。

「おひやま次世代自動車技術開発センター」(OVEC)は、車のEV化による産業構造の変化に危機感を抱く県内の中小自動車部品メーカーを中心とした16ほど、岡山県工業技術センター、岡山県、岡山県産業振興財団が中心となって2011年4月にスタートしたプロジェクトの旗本、三菱自動車、S・I・M・D・I・V・I・eはがアドバイザーを務め、岡山理科大学の協力を得て「車から見た部品制り」という考え方に基いて、モーターをはじめ次世代自動車に求められる新技術



1 三菱自動車の水島工場にEV用モーターを製作している。2 OVECで開発されたEV用モーター。3 OVECで開発されたEV用モーター。4 OVECで開発されたEV用モーター。

利用者の視点
 EV観光の活性化に期待

県庁だけでなく周辺の自治体と連携した広域的な急速充電スポットの整備と情報提供の積極的な取り組みで、EV-PHVを利用した観光の活性化を支援。観光スタンプ(GS)の減少と高齢化が進む地域では、EV普及の促進が期待されている。

2013年3月にはスペース効率がよくて軽量なインホイールモーターを装着した試作EV(OVEC・ONE)が完成。多岐面を注目を集めている。

今後の展望
 広域的な観光活性化へ

充電設備による充電インフラ整備を促進するために課金制度の導入を検討する。同時に、EVを使った岡山、中国、四国という広域的な観光を活性化させるために、急速充電器の整備に設置スポットの情報提供を推進していく。

鳥取県次世代自動車充電インフラ整備ビジョン
 今後のEVの普及と移動の自由を確保するため、地域の活性化を図り、交通量の多い道路、主要地方道の沿道を中心に、都市付帯部周辺、主要観光地などに総数566カ所の充電インフラを整備する。

EVの特性を最大限に 活用して鳥取県民の日常の 交通手段として定着させたい

目標
 2015年度までに3000台

現状
 充電器は全国上位の水準

2010年7月に米子市に誘致したEV製造工場でのEV製造が本格化している。2013年3月時点でのEVの普及台数は252台(PHVの台数は不明)。急速充電器の設置数は33基と、人口対人口比での急速充電インフラの整備率は全国上位の水準。

2010年7月に米子市に誘致したEV製造工場でのEV製造が本格化している。2013年3月時点でのEVの普及台数は252台(PHVの台数は不明)。急速充電器の設置数は33基と、人口対人口比での急速充電インフラの整備率は全国上位の水準。



上鳥取町の充電スポット「EVナビ」でEVを充電している。EVナビは、県庁ホームページのリンク先からアクセスできる。県庁ホームページ: <http://www.pref.tottori.gov.jp/evnavi/>。お問い合わせ先: evnavi@pref.tottori.gov.jp (中国・四国エリア) / 充電スポットマップに掲載

民 関係業者によるEVを活用した取り組みとして注目されるのが、智通石油が2013年5月に始めたEVによるカーシェアリングだ。会員は提携のPCから予約を入れてEVが置いてある駐車場に行き、会員カードで車のドアを開けてから車を利用する。利用後は同じ駐車場に車を返し、ドアを閉めて充電器をつなぐというのが基本的なシステム。会員カードによるドアの開閉や各種データの管理には、同社が独自にシステム開発した車載器やカーブリーパーが使われている。利用料金は15分0.0円、24時間4300円と極く設定され、支払いはあらかじめ登録したクレジットカードで決済する。

会員数は重要に増えている。EVによるカーシェアリングは、2012年3月に開始した智通の巡回バスに代わる公共交通として、1時間前までに電話で予約してから乗車する。いわゆる「予約制」方式のEVカーシェアを導入したEVは5台あり、運行は市内のタクシー営業所に委託。市内168の営業所にタクシーの乗り場を設け、医師訪問やスーパーマーケット、グラウンドゴルフ場など60カ所の「目的地」まで、乗客が「目的地」まで乗客を乗せて1回につき500円と誰でも乗車できる。車をEVにしたのは、木山という自然の豊かな場所にあるという理由が最大の理由で、木山町は鳥取県無形文化遺産の充電インフラ整備(急速充電器3カ所、普通充電器9カ所)を誇る。



レンタカーの充電料にも関する鳥取県内最大のEVシェアリングサービス「EVナビ」の充電スポット。EVナビは、県庁ホームページのリンク先からアクセスできる。県庁ホームページ: <http://www.pref.tottori.gov.jp/evnavi/>。お問い合わせ先: evnavi@pref.tottori.gov.jp (中国・四国エリア) / 充電スポットマップに掲載

利用者の視点
 EVの可能性を模索

車を所有していない通勤族や学生をターゲットにした、利用時間でも利用できるカーシェアリングが、岡山県の大井町でスタートした。県庁の巡回バスに代わる公共交通の手段となるだけでなく、課金制度に対する整備を促す方法として注目だ。

今後の展望
 EV活用の裾野を拡大

急速充電器の整備率が人口比で全国トップクラスという環境を生かして、EVによるカーシェアリングやタクシーの増加傾向にあるEVの普及を支援。観光スタンプ(GS)の減少と高齢化が進む地域では、EV普及の促進が期待されている。



鳥取県大井町にある大井町で、2012年3月に開始した智通の巡回バスに代わる公共交通として、1時間前までに電話で予約してから乗車する。いわゆる「予約制」方式のEVカーシェアを導入したEVは5台あり、運行は市内のタクシー営業所に委託。市内168の営業所にタクシーの乗り場を設け、医師訪問やスーパーマーケット、グラウンドゴルフ場など60カ所の「目的地」まで、乗客が「目的地」まで乗客を乗せて1回につき500円と誰でも乗車できる。車をEVにしたのは、木山という自然の豊かな場所にあるという理由が最大の理由で、木山町は鳥取県無形文化遺産の充電インフラ整備(急速充電器3カ所、普通充電器9カ所)を誇る。

EV・PHVインフラ整備をご検討の皆様へ



EV・PHV充電設備の設置に、国の補助金が出ます!!

補助率最大 $\frac{2}{3}$

次世代自動車充電インフラ整備促進事業のご案内(補助率100%)

こんな皆様にオススメです

こんな皆様にオススメです

UP!!
 公共性を有する*1
 充電設備を設置する場合
 取組 X $\frac{1}{2}$ 補助
 取組 X $\frac{2}{3}$ 補助

自治体等が指定する充電設備の
 ための充電インフラ整備する場合
 取組 X $\frac{2}{3}$ 補助
 取組 X $\frac{1}{2}$ 補助

マンションの駐車場、および月極
 駐車場等へ充電設備を設置する場合
 取組 X $\frac{1}{2}$ 補助
 取組 X $\frac{1}{2}$ 補助

互換以外の充電設備を
 設置する場合
 取組 X $\frac{1}{2}$ 補助

※1 補助対象にはなりません。詳しくは下記ホームページまたはホームページをご覧ください。
 ※2 「公共性を有する」とは、以下のすべての条件を満たす必要があります。
 ① 充電設備が公道に進入し、かつ自由に出入りする構造にあること。② 充電設備の利用がカーシェア(貸車等)の利用又は特定の個人を条件としていないこと。③ 「ただし、駐車料金の徴収は可」。④ 利用者を確保していないこと。⑤ 「ただし、金庫などにおいておける貸付を条件としていないこと。⑥ 補助金の交付を受けるためには平成26年10月31日(金)までに、充電設備の設置工事が完了し、充電設備設置費用及び工事費用の支払いが完了し、未精算請求書(一般社団法人次世代自動車整備センター)に提出することが必要です。⑦ 「自治体等が指定する充電設備のための充電インフラ」は、申請要件及び高圧送電線沿道に必要充電設備を社会的に整備するため、適切な設置場所等が示されます。充電設備を新設している自治体等については、同センターのホームページで公開しています。

お問い合わせ先

次世代自動車整備センター 充電インフラ整備促進事業のご案内(補助率100%)
 03-5501-4412
 (受付時間 9:00~17:00)

一般社団法人 次世代自動車整備センター 次世代自動車整備センター 充電インフラ整備促進事業のご案内(補助率100%)
 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-14-12 次世代自動車整備センター10階
<http://www.cev-pc.or.jp/>

日産自動車 リーフ
 298.935万円(補助率80%)
 CEV補助率
 最大 **78万円**

電気自動車専用充電設備の設置に、国の補助金が出ます。
 充電設備の設置に、国の補助金が出ます。
 充電設備の設置に、国の補助金が出ます。
 充電設備の設置に、国の補助金が出ます。



V2Hで電気自動車が
 家庭用電源に。

さまざまなシーンで活躍する、EV・PHVのために。

PHVの可能性を拡げたV2L、
 自分で発電する4WD・SUV。
 三菱自動車 アウトランダー
 PH-EV G (電気駆動専用)
 355.9万円(補助率80%)
 CEV補助率
 最大 **30万円**



グローバルに
 活躍しているPHV。

静かでパワフル、
 たぶり積める
 電気自動車。



トヨタ自動車 プリウスPHV
 305万円(補助率80%)
 CEV補助率
 最大 **33万円**

お問い合わせ先

次世代自動車整備センター 次世代自動車整備センター
 03-3503-3782
 (受付時間 9:00~17:00)

一般社団法人 次世代自動車整備センター 次世代自動車整備センター
 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-14-12 次世代自動車整備センター10階
<http://www.cev-pc.or.jp/>



一般社団法人 次世代自動車振興センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-6-12
大手町建物虎ノ門ビル2階

<http://www.cev-pc.or.jp/>

本リーフレット中の車両価格に一部変更がありましたので、
下記の通りお知らせ致します。(2013年10月1日)

P22 右上「トヨタ自動車 プリウスPHV」

【改定前】

305万円 (メーカー希望小売価格消費税込) ~
CEV補助金 最大33万円

【改定後】

285万円 (メーカー希望小売価格消費税込) ~
CEV補助金 最大30万円